〔コラム〕

選挙運動についていく

このコラムは，ともすれば制度と数字に終始しがちな選挙解説に，実際の選挙運動の描写を加えることで，より立体的に 2015 年総選挙を理解しようとするものである。このコラムが扱うのは，連邦団結発展党（United Solidarity and Development Party: USDP）候補者ひとりの選挙運動と，国民民主連盟（National League for Democracy: NLD）候補者ひとりの選挙運動である。人数も，観察時間もかなり限定されており，これを 2015 年総選挙全体の傾向とみなすことはできないが，キャンペーンへの随行とは別に筆者が行った，約 20 の与野党候補者へのインタビューからは，以下で紹介される事例と似通ったキャンペーンの状況がさまざまな場所にあったことが確認されたため，ミャンマーの選挙運動を知るための参考にはなるだろう。

(1) バゴー管区域ピュー選挙区の USDP 候補者シュエマン氏の事例

シュエマン氏は 2000 年代前半に国軍の要職である三軍統合参謀長に就任してから軍内の実力者となり，2004 年に当時の首相であったキンニュン氏が失脚して以降は，次代の国軍最高司令官候補と目されていた。2011 年の民政移管によって大統領就任も噂されたが，結果として軍政 No.4 だったテインセイン氏が大統領に就任して，シュエマン氏は総選挙当選後に下院議長となった。その後も，選挙直前の解任劇まで一貫して与党と議会で影響力をもった大物政治家である。選挙時点での年齢は 68 歳，民族はビルマ民族である。

シュエマン氏のキャンペーンに同行したのは，投票日の 1 週間前のことである。シュエマン氏は下院議長の職にあるため，きわめて多忙で，選挙キャンペーンにとれる時間は必ずしも多くない。そのなかで議会が開催されない週の半ば 3 日間をキャンペーンにあてるということであった。

当日の朝，市街からやや離れた場所（ヤンゴンから首都ネーピードーをつなぐ高速道路との合流点近く）にある政府事務所にスタッフたちは集合していた。下院議長が来るということもあり警察車両も到着していて，若干の緊張感がある。その場に集まっている選挙スタッフは総勢 30 人ほどで，中年男性が多い。シュエマン氏がネーピードーから到着したのが 7 時 30 分過ぎ。

しばらく事務所内に滞在してキャンペーンに出発した。車列は報道陣や警察車両も含めて 11 台にも及んだ。筆者はそのうちセキュリティ担当者が乗る車両に同乗を許された。セキュリティ担当ということもあり，先頭から 2 台目で，その 2 台後方に夫人を伴ったシュエマン氏の乗った車両があった。このキャンペーンにはピュー郡を含む選挙区で上院に立候補した候補者と，ピューから地方議会に立候補しているシュエマン氏の弟も参加し

ていた。

＜写真 1-A　シュエマン氏を待つスタッフと車両＞

この日の予定は午前中に 3 つの村をまわり，午後に市街をまわるというものだった。11 台の車列がひとつ目の村に向かう。ピューは人口 25 万人のタウンシップである。幹線道路沿いの市街は舗装道路があるが，そこから村に向かうと，舗装されていないデコボコの道を行くことになる。途中，シュエマン氏の口添えで建設が決まった病院の建設現場をとおりすぎる。まだ基礎工事の段階である。こうしたインフラがヤンゴンのような大都市部から地方に波及するには民政移管から 4 年半という時間はやはり短すぎたようである。

車列が出発して 45 分ほどで最初の村に到着した。先行の警察車両があって，集会のための準備が整っている。シュエマン氏がまず訪れたのが僧院である。僧院の僧正（サヤドー）に挨拶をする。僧正はにこやかにシュエマン氏を迎えていた。それほど人を集められず申し訳ないという旨の発言を僧正がしていた。関係者によると今回の訪問のタイミングについて連絡ミスがあったようで，多くの村人が集まらなかったという。この「連絡ミス」が事実なのか，それとも言い訳なのかは不明であるが，シュエマン氏は「問題ないです」と僧正に答えていた。

＜写真 1-B　村の僧正と話をするシュエマン氏＞

一行は僧院を出て，僧院横の集会所（ダマーヨウン）に移動した。すでに村人が集められている。村長から呼びかけがあったそうである。僧院の入り口ではシュエマン氏の写真が乗ったジャーナル（議会の出来事を扱うもの）が配られている。聴衆の数はざっと 100 人ほど。目立つのは女性と子ども，そして年長の男性たちである。

聴衆の前に立ったシュエマン氏がマイクを使って演説を始める。穏やかな口調で村人に問いかける。この村には学校はどの段階まであるのか。すると，女性の村人が，中学校までです，と答える。つづいてシュエマン氏は，学校の生徒は何人くらいいるのか，クリニックはいくつあるのか，ピューの町に行くには費用がいくらかかるのか，ピューに出て高校に通うとするといくらかかるのか，と矢継ぎ早に質問をする。質問が具体的なので答えやすいのだろう。村人が即答していく。シュエマン氏は，ピューに出るとお金がかかるからもっと村に近い場所に高校をつくり，病院をつくらないといけない，と続け，さらに，それは政府の予算を通じてやることである，ただ政府のお金は人民のお金であるから，人民のために使われるべきだ，と話した。

そのあと，自分がピュー出身で故郷に愛情（メッター）があり，愛情があれば故郷のために仕事をしたいものである，発展を約束する，私を信じてもらえるか，と村人に問いかける。村人は，信じる，と答える。演説の最後には仏教の説法に近い要領で，短い問いとそれに対する短い返答を繰り返して（「故郷への愛情はあるものか」→「ある」→「愛情があれば故郷には同情するものか」→「する」→「同情があれば故郷のために仕事をしたいものか」→「したい」→「自分を信じてくれるか」→「信じる」といったかたち），演説を盛り上げていった。

与党の元党首だけあって，演説には慣れている様子であった。自身が元将軍で今も高い地位にあるために人々から怖れられていることを自覚しているのだろうか，具体的で身近な質問から村人とコミュニケーションをとり始める姿は印象的だった。そのなかで違和感を覚えた点を挙げるとするなら，聴衆からの質問をまったく受けなかったということである。演説を終えると振る舞われたお菓子を付き添いに渡してシュエマン氏は集会場を離れた。もうひとつ違和感を覚えたのは，同行している上院候補と地方議会候補についてである。シュエマン氏は彼らの名前を紹介したものの，彼らには発言の機会を与えなかった。上院候補は現職の下院議員でもあるが，ノートを抱えてシュエマン氏の脇に立ち，ときどき村人のシュエマン氏への返答をメモしている。紹介がないと秘書と見間違えるほどである。地方議会に立候補しているシュエマン氏の弟は体が大きく，ずっとシュエマン氏の脇にいるのでボディガードにみえた。

ひとつめの村での滞在時間は 30 分ほどで，次の村へと移る。この村は以前のキャンペーン時に村人から，うちにも来て欲しい，と頼まれた村だということである。シュエマン氏が着いた時には，USDP 支持者であろう村の有力者の家の庭に人々が集まっていた。聴衆は女性と年長男性中心である。庭の広さの問題もあってか人の数は 80 人ほどであった。演説の内容はひとつ目の村とほぼ同じである。まず，学校について，続けて病院，町への道のりと町にでるための支出額についてシュエマン氏が質問して，村人が答える。

病院はあるが医療機器が足りない，と村人が訴えると，それをメモするようにシュエマン氏が上院候補に指示をする。政府のお金は人民のお金であり，それらを道路，保健，教育に使用することが大事だという主張である。

＜写真 1-C　村人に演説をするシュエマン氏＞

この日まわった最後の村になる 3 つ目の村も有力者の家の庭先で集会が行われた。先行したスタッフがすでに庭先に日除けをつくって準備をしてある。敷地も広いため，集まった村人は 200 人ほど（構成は女性と年長男性中心）と多かった。また，海外メディアが 3 社ほど入っており，この村での演説は以前から予告されていたようである。演説の内容は前ふたつとほぼ同じだったが，異なったのは，シュエマン氏が初めて自分の身の上話をしたことである。自分は小学生のときに父親を亡くしたが，そのあと貧しいにもかかわらず母親が自分を学校に通わせてくれたから，高校卒業後に士官学校に行って将軍にまでなれた，教育が本当に重要である，と簡潔に話した。もっと丁寧に話せば聴衆をひきつける感動的な話になりそうだが，そこは意識しないのか，あっさりと次のより一般的な話（教育，保健，道路，電気といった基礎的なものが重要である云々）へと移行していった。最後に，上院候補と自分の弟を紹介したが，彼らはやはりひと言もしゃべらない。夫人も後方に控えており，演説のなかで言及されることもあったが，聴衆の前で話すことはなかった。

＜写真 1-D　シュエマン氏を歓迎する村人①＞

このあと 13 時半にピューの町に戻り，シュエマン氏は私邸に入った。スタッフたちも食事をとり休憩する。結局この休憩は 16 時まで続いた。ゆったりと昼休みをとることはミャンマーでは珍しくないとはいえ，これは長すぎる。長い休憩の理由は，この日の正午前にシュエマン氏が USDP から除名されたという情報がフェイスブック上で流れたためである。その情報を英国 BBC の記者が確実な情報とツィッターでツィートしたために一気にスキャンダルとなった。シュエマン氏の私邸には多くのメディア関係者が押しかけ，キャンペーンどころではなくなったのである。結局，USDP の党本部からそうした事実はないという発表がなされて，事態は終息した。この騒動によって，筆者が昼食時にできるかもしれないといわれていたシュエマン氏への直接のインタビューは実現しなかった。

16 時，予定より遅れてキャンペーンが再開された。シュエマン氏宅から車列が出発した。演説の予定はなく，町の住宅地を大音量の音楽をかけて車列がゆっくりと進む。場所によっては，USDP の T シャツを来て楽器の演奏や花束を抱えた子どもたちがキャンペーンの車列を迎える。シュエマン氏やほかの候補者たちは窓から顔を出して声援に応え，たまに車外に出て直接村人に話しかけるなどしていた。ただ，村人にまぎれて新聞記者が先ほどの USDP 除名情報について質問をするなどしたためか，あるいは疲れからか，途中からは車から出ることはなく，ゆっくり動く車上から住民に手を振り続けていた。選挙キャンペーンというよりも住民が地位の高い要人を迎えるというような印象で，自発的というよりも動員された人々も少なくないようにみえた。ただ，住民たちが強制的にやらされているのかというとそういうわけでもなさそうで，シュエマン氏自身が著名な人物だからかもしれないが，住民はそれなりにうれしそうに手を振るなどして応答している。こうして 2 時間ほど住宅街をまわり，この日のキャンペーンは終了した。

＜写真 1-E　シュエマン氏を歓迎する村人②＞

ちなみに選挙結果は，下記の表 1－A のとおりである。シュエマン氏の高校の同級生で，ピューの NLD 党支部で長年活動をしてきたタンニュン氏に約 1 万票及ばず，シュエマン氏は敗れている。

表1-A　下院・ピュー選挙区投票結果

候補者名	政党名	票数
タンニュン	NLD	54,770
シュエマン	USDP	44,173
ココチョー	無所属	10,081
ナンキンウ	NUP	2,718

（出所）連邦選挙管理委員会ウェブサイトより。

(2)マンダレー管区域ナットージー選挙区の NLD 候補者ナイントゥーアウン氏の事例

ナイントゥーアウン氏（以下，ナイン氏）は 1985 年にナットージー郡の町で生まれた。ビルマ民族の男性である。母方の親族が金を売る店を経営しており，比較的裕福な家庭に育った。ナットージーはミャンマー第 2 の都市マンダレーからネーピードーに向かうハイウェイを 1 時間ほど南に行き，そこから西にまた 1 時間から 1 時間半ほどエーヤーワディー川方向に入ったところにある。乾燥地帯ということもあって決して豊かな場所ではないが，幹線道路やエーヤーワディー川からそれほど遠くないので，へき地ではない。

ナイン氏はマンダレーにあるヤダナーポウン大学を出たあと，2012 年から NLD の党員として政党活動を始めた。ただ，党支部での活動よりも，仲間たちと勉強会を開いたり，ヤンゴンから講師を呼んで講演会を開催したり，寄付で本を集めて小さな図書館をつくったりと，政治にかかわる啓蒙活動に熱心だった。そして，もともと関心のあった 2015 年総選挙への立候補を決意し，党への申請を決意する。そして，地元の郡での下院候補としての立候補が認められた。

ナットージー郡の選挙区には興味深い点がふたつあった。ひとつに USDP の対立候補が現職大臣であることである。しかも，公共事業案件を多く扱う連邦政府運輸大臣だっ

た。事実，ハイウェイからナットージーへ向かう道路沿いでは多くの灌漑用水路の工事が行われていた。これが大臣による利益誘導であるかどうかはもちろんわからないが，可能性は十分にある。当該大臣の前職は空軍の将軍で，ナットージー郡内の村落出身である。USDP の議員の多くが当選後に自身の選挙区に関心をもたないのに対して，この候補者はときに村に戻って住民と対話をしていたという。相当有力な候補だといってよいだろう。ふたつ目に興味深いのは，この選挙区では 2012 年に補欠選挙が実施されており，NLD の議員が勝利していた。したがって，NLD の潜在的支持者が多い地域ではある。

さて，筆者がキャンペーンに同行したのはキャンペーンが解禁になってから 10 日ほどたった頃である。まだキャンペーン期間が 50 日ほど残っていた。選挙資金は 1000 万チャット（日本円の当時のレートで約 90 万円）が上限で，この額は決して多くないため，多くの候補者はこの時点ではまだ活発な選挙活動は行っていなかった。実際，ナットージー郡に行く前に，マンダレーの市内から立候補する NLD の候補者にインタビューしたが，彼はまだキャンペーンのためのビラを印刷しているところで実際の運動はまだ始めていなかった。ところが，ナットージー郡に行くと状況はずいぶんとちがった。ナイン氏は 60 日のキャンペーン期間がはじまった直後から村落でのキャンペーンを始めており，10 日経った時点ですでに郡内にある約 180 の村落のうち，50 から 60 の村は訪れたという。これは都市部での NLD 人気を背景にした候補者の余裕と，村落部でかつ対立候補が現職大臣という候補者との戦略のちがいでもあるのだろう。

この日も早朝から夜にかけて 6 カ村をまわることになっていた。村の選択は地理的な条件等で決まる面もあるが，2012 年の補欠選挙と 1990 年の総選挙のデータを使って，そのときに NLD の得票率が低い村に数多く訪問できるように組まれているという。筆者が村に着いたのが午前 7 時で，候補は自宅で朝食をとっていた。これまでのキャンペーンや状況について話をしながら筆者も朝食を食べ，そのあと NLD の事務所近くにある喫茶店に向かう。そこには地元のボランティアが集まり，村へ出かける準備をしていた。いっしょに村をまわる地方議会の NLD 候補の女性も合流する。運動員は友人や親戚，NLD の支持者からなる総勢 50 人ほどで，これは通常のサイズだという。多い時には 100 人になることもあるとのことだった。顔ぶれとしては男女がほぼ半数ずつで年齢は 20 代前半が多い。村での運動ではこれに各村の支持者が加わる。

車は 3 台（うち，スピーカーのついた幌付きの軽トラックが 2 台），バイクは 8 台（それぞれに NLD の小旗がつけられている）で移動する。1 時間ほど車に乗り，最初の村に到着する。この村には NLD 支援者が最近建てた事務所があり，その事務所の庭に急造の集会場が出来上がっていた。集会場に集まっていた村人は 70 人ほどで，ふたりの候補者はその集会所の御座に座り，村民と車座になってお茶を飲みながらまず日常会話をする。

＜写真 1-F　キャンペーンに移動する車列＞

＜写真 1-G　車座で村人と話すナイン氏＞

その後，ナイン氏が立ち上がって演説を行った。大きな通る声で，自身の生い立ちと地元とのつながり（自身の母親と母方の祖父が貴金属店を経営していることなど）からはじまり，アウンサン将軍，アウンサンスーチー氏のすばらしさ，NLD こそが真の変化をもたらすものであると，熱弁をふるった。演説のなかでは「人は大事ではなく，党が重要だ」と明言していた。当初 70 人くらいだった村人も次第に増えて，演説の中盤では 100 人を越えるほどになった。続けて地方議会候補の女性が短く自己紹介に近い演説を行い，その後に村人からの質問が求められる。ひとりの中年男性の村人が「NLD が勝てば平和は訪れるのか」と質問をし，ナイン氏は NLD が勝てば必ず全土で和平が成立すると答えていた。

30 分ほどの集会を終えて，続けて候補者自身とキャンペーン要因が手分けして戸別訪問を行う。この村は 2012 年の補欠選挙では NLD が最多得票を得られなかったということで，一軒ずつ家のなかにいる人や軒先で仕事をする人たちに投票を訴えていく。スーチー氏のチラシをみせながら，村人が彼女を知らないケースも想定して「アウンサン将軍の娘です，投票して下さい」と声をかけていた。戸別訪問を約 1 時間手分けして行い，次の村に移動する。ふたつめ以降の村には党の事務所はないため，支持者の自宅にいっ

たん集まり，そこから人手を分けて戸別訪問で支持を訴えるというパターンが繰り返された。

＜写真 1-H　村人に投票方法を教えるナイン氏＞

＜写真 1-I　チラシを配る NLD のキャンペーンスタッフ＞

今回随行したどの村でもそうだったが，すでに USDP の看板やポスターが貼られており，この地域でのキャンペーンは USDP が先行しているようであった。村人によると，USDP の運動員が来た際に，USDP に投票すれば，30 万チャットで電気を引くことができるというのが誘い文句だったという。それを聞いた NLD の運動員は，村の電化は USDP でなく政府の仕事なので NLD が政権をとっても同じであること，また，米や水や自動車用バッテリー（電気の来ていない村でよく使用される）といった生活物資の提供が USDP からあれば受け取ればよい，そのうえで NLD に投票するように訴えかけていた。

3 つ目の村に着いた時，正午を越えていたため，支持者宅の脇にある 50 人は入れそうな大きめの小屋で，支持者が準備してくれた昼食をとる。昼食後，その小屋に村人の一

部を集めて投票方法の解説があった。NLD の選挙運動で印象的だったのはこの作業で，彼らが「ボーターエデュケーション」（Voter Education）と呼ぶ，人々への投票方法の実演指導である。この指導の背景には，NLD の選挙関係者にある程度共通した村落部の有権者像があるように思われる。それは簡単にいうと，こういうことである。投票者はマニフェストに目をとおしたり，民主主義や人権に深い関心をもったりするような人たちではなく，選挙とは何か，投票はどうすればよいのかも知らない人たちである。したがって，投票の呼びかけは，投票方法の説明を伴わなければならず，模擬投票用紙を用意し，そこに書かれた候補者の名前と党のマークを確認して本番さながら選挙管理委員会の UEC がついた投票スタンプを押してみせる。ときには村民自身に押してみるようにうながす。NLD の選挙キャンペーン CD ではアウンサンスーチー自身が投票を実演していた。

筆者が帯同したキャンペーンの場合，この役割を果たしていたのは，候補者の地元ボランティアではなく，マンダレーで知り合ったナイン氏の友人たちであった。彼らはこの選挙区だけでなく，全国各地で「ボーターエデュケーション」を実施していた。こうした動きは，村落部の有権者が選挙に関する知識は乏しい，という NLD の現状認識があるが，もうひとつに，多くの有権者の「無知」につけ込んだ政府による不正の可能性への警戒の現れでもあった。

この有権者教育をひととおり終えると，候補者と運動員たちは再び大量のビラを手にして戸別訪問を始める。候補者自身の個別訪問では積極的に村の人と会話をするが，運動員の戸別訪問についてはその方法は千差万別である。まず，敷地に入って家屋のなかや庭で仕事をしている人に話しかける。NLD に票を入れて下さい，とストレートに表現することが多かった。そこで反応がよいと道路に面した生け垣や門柱にチラシを貼ってよいか尋ね，許可が出たら，ホッチキスで紙のチラシを直接貼り付ける。これが最も多くみかけた戸別訪問の仕方だった。

＜写真 1-J　村で戸別訪問のために散らばるナイン氏とスタッフたち＞

1 時間ほど手分けして個別訪問を行ったあと，4 つめの村へ移動する。移動の車中，4 つめの村は 2012 年の補欠選挙で 90%以上の票が NLD に投じられた村だと聞いてい

た。たしかに，キャンペーンの車列とバイクが村の中心に近づくと，多くの支持者が道の両脇で車列を迎え入れた。さらに，村のなかにある広場まで行くと 200 人以上の村民が集まっている。なかには NLD の T シャツを着たり，シールを頬につけたりしている人たちもいた。候補者は演説をしたそうだったが，公共の場での演説には事前の許可が必要だったため，集まった村人一人ひとりと会話をし，写真を撮っていた。

この時に初めて気づいたのだが，ひとりの運動員が肩にぶらさげたバッグから VCD を配っている。聞くと，NLD のキャンペーンソングをプロの歌手たちが歌っている動画が入っているという。VCD 観賞はミャンマーの村で大変一般的な娯楽であるため（電気はなくても小型バッテリーで観賞する），たいそう人気で多くの村人たちが求めていた。ちなみに，こういう村を NLD が勝つ可能性が高いという意味で「セイ・チャーデ・ユワー」（安心な村）と運動員たちは呼んでいた。

この NLD 人気が高い 4 つめの村から移動した先は 2012 年補欠選挙で USDP の得票が NLD の得票を上回った村である。確かに，この村ではまず車を止めるために庭先を提供する NLD 支持者の家がない。支持者はいるそうだが，車 3，4 台を駐車するのに十分なスペースの土地をもっている支持者がいないとのことである。そのため，村の道路脇の空き地に駐車し，そこから，キャンペーンソングを流す軽トラックと候補者，運動員たちが村に入っていき，個別訪問を始める。

＜写真 1-K　村人と話すナイン氏＞

村人の対応がとくに冷ややかということはないが，この村では NLD の運動員の到着に合わせるかのように，USDP の事務所脇の電柱高くに据えつけられたスピーカーから大音量で USDP の応援ソングが流れ始めた。ほかの村にも USDP の事務所はあったが，こういった対抗手段が講じられたのはこの村だけであった。全国でしのぎを削るふたつの政党を応援する音楽が大音量で村に響き渡っていた。大音量でテンポも音調もちがう曲が同時に流れると，当然聴くものを不快にさせるが，少なくとも筆者が観察したかぎりでは村人は気にする様子もなく，音楽には無関心にすらみえるほどであった。

最後の村に着く頃には昼の猛烈な日差しもやわらいでいたが，早朝からほとんど休みなく，移動と個別訪問を行っているために，さすがに運動員たちにも疲れの色がみえた。この村も NLD への支持はそう固くないとみえて，終始，戸別訪問を繰り返す。今回まわった 6 カ村はすべて人口が 1500 人ほどの規模で，1 時間から 2 時間かけて可能なかぎり多くの世帯を訪問していた。最後の村を出たのは夕方の 18 時過ぎであった。そこから 1 時間ほどかけて町に戻る。すべての行程で 12 時間ほどの活動である。候補者はこれを選挙キャンペーン解禁日からずっと続けており，180 ある村を最低 2 回はまわりたいということであった。

シュエマン氏のキャンペーンが組織だっており，資金力の強さがあったのに比べると，ナイン氏のキャンペーンはそこまで統率されていない。ただ，キャンペーンを担う人たちの年齢層が若く，勢いが感じられた。シュエマン氏の場合は良く悪くも落ち着きがあったが，形式化された運動をみているようであった。最後に下院ナットージー選挙区の選挙結果は表 1-B のとおりである。約 1 万 5000 票の差をつけてナイン氏が現役大臣の USDP 候補者をやぶった。

表 1-B　下院・ナットージー選挙区投票結果

候補者名	政党名	票数
ナイントゥーアウン	NLD	58,319
ニャントゥンアウン	USDP	43,153
キンソートゥェ	NDP	1,738
トゥンサン	無所属	877

（出所）連邦選挙管理委員会ウェブサイトよ

（中西嘉宏）

※本コラム掲載の写真はすべて筆者撮影（1-A～E：2015 年 11 月撮影，1-F～K：2015 年 9 月撮影）